



PACIFIC RACING TEAM「NAC 攻殻機動隊 ARISE DR ポルシェ」 初入賞狙いも 21 位ながら、全戦完走を継続

2013 AUTOBACS SUPER GT 第6戦 FUJI GT 300km Race
#9 NAC 攻殻機動隊 ARISE DR ポルシェ レースレポート

9月7日 [土] 予選 / 曇 / コース：ドライ

9月8日 [日] 決勝 / 小雨のち曇 / コース：セミウェット&ドライ

日本で最も人気を集めるレースシリーズ、SUPER GT の第 6 戦が 9 月 7~8 日に静岡県富士スピードウェイで 300km レースとして開催され、PACIFIC RACING の#9「NAC 攻殻機動隊 ARISE DR ポルシェ」(密山祥吾/横幕ゆう)は、予選 13 位からスタートし、ピット作業を遅らせたこともあり一時は 6 位までポジションをアップ。しかしコミュニケーション不足から作戦がすべて裏目に働き完走 21 位という結果となった。

富士スピードウェイは F1 日本 GP も開催されたことのある国際コース。1.5km という世界的にも長いストレートを持ち前半は超高速コースながらも、後半はテクニカル区間となる。関東、中部地区から訪れるファンも多く、最も盛り上がる開催地である。またストレートスピードに勝る 2012 年型ポルシェ 911 GT3R にとっては、入賞のチャンスが大きく活躍が期待された。例年残暑の厳しい 9 月の富士大会だが、今年は天候がぐずついたこともあり比較的涼しいレースウィークとなった。

7 日朝に行われた公式練習では、密山が 6 番手のタイムをマークするなど走り出しから好調。曇り、気温 25℃で始まった公式予選の Q1 では密山がステアリングを握ってコースインし、11 番手のタイムで Q2 への進出を決めた。トップ 13 台でスターティンググリッドを決める Q2 では横幕がアタックを担当し 13 位となり、これでグリッド位置が確定した。「朝よりもオーバーステアになっていて乗りにくくなっていました。せめてジェントルマンドライバーが Q2 を担当した 2 号車と 48 号車の前に行きたかったのに残念です」と横幕。「でもコンスタントラップはいいし、お天気次第ですが決勝のイメージはできています」と笑顔を見せた。

8 日朝は弱い雨の中フリー走行が行われ、密山が 11 位のタイムをマーク。ウェット路面でもそこそこの勝負ができそうだ。雨はその直後に止み、決勝レースのコースインが始まるころには完全ドライ路面となった。また、各車がグリッドにそろそろころには晴天となり、気温も 30℃近くまで上昇した。

14 時にフォーメーションラップ開始。密山がスタートを担当したが、オープニングラップの大混乱で 3 つ順位を落とした。しかしそれでも密山は徐々に順位を上げて 15 周目には 13 位へ復帰。しかし 17 周目にストレートでタイヤバーストを喫しクラッシュした車両があり、この破片を回収するためにセーフティカーが導入されることとなった。このタイミングで多くの車両がピットインをし、早めのドライバー交代。しかし密山は長い周回数を担当することになっており、コースにとどまる作戦を採った。このこともあり順位は 6 位までアップ。レース中盤を過ぎて雨が降り出し、絶妙なタイミングでピットインしてレインタイヤに交換し横幕に交代となれば、この順位を守れるかもしれない。

しかし雨が降り始めるのはチームの希望より早かった。折り返し点より前の 27 周目あたりで雨がポツポツと落ち始め、グランドスタンドには傘の花が咲き始める。ピットではレインタイヤと横幕の準備をしながら、密山に「待て」の無線を出した。しかしできれば密山がコースにとどまり、横幕の負担は軽くしたい。ところが 30 周で密山がピットイン。「待て」の無線を「1 周待て(次周にピットイン)」と解釈したのだった。チームは雨量が少なかったこともあり、浅い溝のインターミディエイトタイヤに交換して横幕を 11 位でコースへ送り出した。

しかし期待とは裏腹に、雨量は増えるどころか上がってしまいコースは乾いていった。スリックタイヤと横幕のレインタイヤではラップタイムが 10 秒ほど違いこれでは勝負はできない。横幕は再びピットインしてスリックタイヤに交換。これで順位は 23 位までドロップすることとなった。もはや 10 位とも周回遅れとなったが、横幕は粘り強くステディに走行。途中もう一度弱い雨に見舞われるも、慎重で確実なドライブを続け 44 周目には 21 位へ順位を上げ、その順位を守ってゴール。これで開幕から 6 戦全戦で完走を果たすこととなった。

以下チームコメント

神野元樹監督

「今回は残念なコミュニケーションのミスがあり、結果が伴わないレースとなりました。チーム全体はまとまってきましたが、まだまだ発展途上。もう一度気持ちを引き締めようと話をしました。残り 2 戦、皆さんに喜んでいけるようチーム一丸となって戦いますので、引き続き応援をよろしくお願いします！」

水谷晃エントラント代表

「今回はコミュニケーショントラブルに尽きます。できないといけない部分ができませんでした。作戦以前の問題です。ただここ数戦は安定して Q1 も突破できるようになったし、ピットワークなどチーム全体がまとまってきた感じを受けます。鈴鹿が速かったので、同じような特性を持つ次のオートポリスでも速いと期待しています。もう一度チームを立て直して残り 2 戦をしっかりと戦いたいと思います」

小藤純一チーフエンジニア

「日本語の微妙な表現が難しいと感じましたので、今後は明確なルール作りをして臨みます。ピット作業時はハーフウェット路面でしたので、安全策としてインターミディエイトタイヤを選んだのですが、残念ながら雨はすぐに止んでしまいました。緊急ピットインの際にスタッフがどう判断するのか。今回の失敗を糧にして今後のレースに役立てていきます」

密山祥吾

「もっと周回を引っ張るべきレースだったのですが、ピットインを『待ってくれ』というのを『1 周待って入ってくれ』と判断してしまいました。その周回で他車両と接触してコースオフしたこともあり混乱していたのでしょう。自分から『まだ引っ張る』と強く言っていれば良かったのだと思います。ただクルマは開幕時からずいぶん煮詰まって来ましたので、残り 2 戦でぜひ結果を残したいと思います」

横幕ゆう

「僕自身はあのウェット路面ではスリックタイヤでも OK だったと思いましたが、きっと雨がひどくなると読んでギャンブルに出たのだと気持ちを切り替えました。ところが数周すると雨は完全に上がり、ピットインしてスリックに替えるとまた雨が降り出すなど、完全に裏目裏目でした。この失敗を今後のレースに役立てたいと思います」

2013. 09. 11